

報 告

秋季渡りの時期のコルリで観察された攻撃的行動

青 山 茂^{1)*}

Agonistic behavior of the Siberian Blue Robin, *Larvivora cyane*, observed during autumn migration in Kobe city, Hyogo Prefecture, Japan

Shigeru AOYAMA^{1)*}

要 旨

2023 年と 2024 年の 8 月と 9 月に越冬地へ向かう秋の渡りで神戸市に渡来したコルリ *Larvivora cyane* の攻撃的行動を 4 例確認した。1 例目は同種間での闘争で、幼鳥雄と他の雄が互いに攻撃し合った。2 例目は同種に対する追いかけで、雌が約 7m 離れた性別不明の他個体に向かって飛び、追い払った。3 例目はヒトに対する攻撃的行動で、採食中の幼鳥雄が観察者の頭部に向かって飛び、途中で転回した。4 例目は他種の鳥に対する追いかけで、幼鳥雄が自分より大きなクロツグミ幼鳥やマジロ幼鳥をビーと鳴きながら追いかけたという情報を聞き取りによって得た。これらの攻撃的行動はさらなる渡りの前に餌を確保しようとする一時的ななわばり行動として発現したのかもしれない。

キーワード: 異種間, 攻撃的行動, コルリ, 秋季渡り, 同種間

(2025 年 5 月 11 日受付, 2025 年 9 月 11 日受理, 2026 年 1 月 31 日発行)

はじめに

コルリ *Larvivora cyane* (Pallas, 1776) はスズメ目ヒタキ科に属する野鳥である(日本鳥学会, 2024)。本種は、全長が約 14 cm であること、足が薄いピンク色で少し長いこと、成鳥雄の体上面が暗青色、体下面が白色であること、雌の体上面がオリーブ灰褐色であること、および幼鳥(第 1 回冬羽)雄の体色が雌に似て地色がオリーブ褐色であるが、雨覆・背の辺りが青味を帯び、顔が黄色味がかる個体もいることが、特徴とされる(清棲, 1952; 北野, 1999; 叶内ほか, 2011; 水谷・叶内, 2017; 青山, 2024)。本種は夏季にユーラシア大陸東部や日本で繁殖し、冬季には中国南部、東南アジアなどで越冬する(中村・中村, 1995; Reeve et al., 2015)。日本での繁殖地は、主に本州中部以北、北海道である(中村・中村, 1995)。神戸市周辺には春に北へ渡る途中で、秋に南へ渡る途中でそれぞれ中継地として短期間渡来する(北野, 1999)。さらに北野(1999)によると秋の

渡来時期にはその年生まれの若鳥(幼鳥)が多く、数羽の群れでいることやカラ類との混群で行動していることもある。一方、青山(2024)では秋に六甲山系で延べ 23 羽の本種の確認があつたが、すべて単独で行動していた。これら以外にこの時期に本種がどのような行動を行うのかについてはほとんど知られていない。また、本種は夏季に繁殖なわばりを形成するが(羽田・堀内, 1969; 田村・上田, 2001; Tamura and Ueda, 2001)、他の時期になわばりを形成するという報告は見当たらず、わずかに Qian and Yi(2011)で攻撃的な行動の簡単な記述が見られるだけである。本研究では、秋の渡来時期に神戸市内で本種の攻撃的行動が見られたので報告する。

材料と方法

調査は 2023 年と 2024 年の秋の渡りの時期である 8 月、9 月

¹⁾ 兵庫県立人と自然の博物館 地域研究員 〒669-1546 三田市弥生が丘 6 丁目

* Corresponding author. E-mail: pekkon26@yahoo.co.jp

© 2026 兵庫県立人と自然の博物館。

オープン・アクセス。注があるものを除いて、この記事の内容物はクリエイティブ・コモンズ表示 4.0 国際ライセンスの下に提供されています (<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>)。

に行った。詳しい時刻は結果に記載した。調査場所は六甲山系で、標高約 440 m の神戸市立森林植物園（神戸市北区山田町上谷上、以下「森林植物園」）と標高約 740 m の六甲山上（神戸市灘区六甲山町）であった。またこの他、本研究では 2 名の野鳥観察者（birder、以下バーダー）から画像や情報の提供を受けた。なお、同種に対する明らかな攻撃だけでなく、他種の野鳥や人に対する見かけ上の同様な行動も含めて攻撃的行動として記載することにした。攻撃的行動の観察は、筆者を含めた各バーダーによる目視、および静止画あるいは動画の撮影によって行った。撮影機材としてカメラボディ Sony α7R V ILCE-7RM5 にレンズ FE200-600 mm の組み合わせ、およびカメラ・レンズ一体型の Nikon Coolpix P950 を使用した。なお、本文中の野鳥の全長については叶内ほか（2011）を参考にした。

結 果

観察された攻撃的行動は、以下の 4 例である。

1 例目

2023 年 9 月 2 日 10:25AM、森林植物園。筆者と同行バーダーがコルリを撮影していた際に、2 羽のコルリが、斜面から素早く短く飛び出して戻ったり、斜面を素早い歩行によって移動したりする行動が、約 7 回観察された。2 羽は相手に突進したり、それをかわしたりするなどしていたため、闘争行動であったと考えられる。



図 1 同種間で戦うコルリ（2023 年 9 月 2 日）。A：左下の個体が右上の個体に突進しようとする；B：左下の個体をかわして右上の個体が上方に逃げようとする。



図 2 コルリ幼鳥雄に追いかけられたと推察される他種個体。A：クロツグミ幼鳥（2024 年 8 月 23 日）；B：マミジロ幼鳥（2024 年 9 月 5 日）。

えられる（図 1）。どちらの個体も喉の辺りが若干黄色いので（図 1A）、幼鳥雄であった可能性がある。青山（2025）は、1 羽の幼鳥雄がタカノソメ *Evodiopanax innovans* (Siebold and Zuccarini) の枝にとまった行動を報告している。今回の闘争行動は、その直後に観察された。このため、闘争していた 2 羽のうち片方は、既報の個体であると考えられる。

2 例目

2024 年 8 月 10 日 02:36PM、森林植物園。散策路にある緩やかな階段の、左側に約 10 m 離れた斜面を、コルリの雌 1 羽が尾を上下に振りながら登っていた。その後、約 7 m 離れた下の地面に向かって素早く飛び、そこにいた性別不明のコルリ 1 羽がそれをかわすように、階段右側の斜面に飛んだ。雌個体も、それを追って右斜面の方向に飛んだ。この場所では、8 月 15 日に雌 1 羽が確認され、また 17 日には雌 1 羽と、3 例目の幼鳥雄 1 羽が確認された。

3 例目

2024 年 8 月 17 日 03:21PM、森林植物園。2 例目と同じ階段の上にある、約 12 m 先の散策路上で、1 羽のコルリ幼鳥雄が採食していた。幼鳥雄は、その様子を撮影しようと動いた筆者の頭部に向かって飛んできたが、途中で方向を変えて、階段の右側にある斜面の、筆者から約 6 m 離れた細い樹木にとまつた。



図3 採食活動中に接近したコルリ幼鳥雄2個体(2024年8月27日).攻撃的行動は起きなかつた.

4 例目

2024年8月25日、または28日、六甲山。あるバーダーが、地面で採食中の1羽のコルリ幼鳥雄が近くに来たクロツグミ *Turdus cardis* Temminck, 1831 幼鳥1羽とマミジロ *Geokichla sibirica* (Pallas, 1776) 幼鳥1羽を、ビーと鳴きながら短く飛んで追いかけたのを観察した。この場所では、筆者は同年8月23日にクロツグミ幼鳥を撮影した(図2A)。この個体は黒色球形の小さな果実を時折採食していた。また、同年9月5日にはマミジロ幼鳥を撮影した(図2B)。コルリの幼鳥雄は、8月23日、27日、28日に確認していた。なお、8月27日に地面で別々に採食活動中の2羽のコルリ幼鳥雄同士が約1mまで接近することがあったが(図3)、攻撃的な行動は見られなかつた。

考 察

本研究ではコルリによる攻撃的行動が4例観察された。1例目は同種個体間での闘争、2例目は同種個体への追いかけていた。香川(1989)はオオヨシキリ *Acrocephalus arundinaceus* (Temminck and Schlegel, 1847) とヨシキリ *A. bistrigiceps* Swinhoe, 1860 のなわばり行動の観察において、同種間での「鳴き合い:counter singing」、「戦い:fighting」、「追いかけ:chasing」を報告している。本研究のコルリ同種間の攻撃的行動はなわばり行動かどうか不明であるが、上述の状況からすると香川(1989)の「戦い」と「追いかけ」に相当すると考えられる。なお、ホオジロ *Emberiza cioides* Brandt, 1843 では群れによる共同採食中に10cm以内に接近した個体などを追いかけたり、威嚇したりする行動が報告されている(山岸, 1978)。本研究の2例目はより離れた個体への攻撃的行動であるところ

が、このような群れでの採食中の争いとは異なつた。

3例目はヒトに対する攻撃的行動であった。鳥類では捕食者や人がなわばりや巣、雛に近づいた場合に威嚇的に飛んでくることが、ケリ *Vanellus cinereus* (Blyth, 1842) (Takahashi and Ohkawara, 2007)、ハシブトガラス *Corvus macrorhynchos* Wagler, 1827(杉田, 2004)、アジサシ類(早川, 1998)などで知られている。特に数個体でそのような行動を行う場合は、モビング(mobbing)と呼ばれる(Canova and Fasola, 2004)。筆者も2024年7月6日に神戸市垂水区の海岸の砂浜で営巣・育雛中の複数のコアジサシ *Sternula albifrons* (Pallas, 1764)が、近づく人の頭付近めがけて威嚇的に飛んでくるモビングを観察・体験した(青山、未発表)。3例目のコルリの場合は、1羽だけを行なつたものの頭付近めがけて飛んでくる行動がモビングと似ていたことから攻撃的行動であると判断した。なお、コルリが人に向かってきた例として、青山(2024)は秋の六甲山系における本種の確認23例中1例だけではあるが、散策路において観察者に背を向けて採食していたコルリ雌が向き直り、ホッピングで向かって来て観察者の横を低く飛んで抜けたと述べた。その動画を見直したところ、散策路は幅約1mで両側にササが茂っていた。青山(2024)の他の確認例では、ほとんどが横の茂みに入るか、樹木の枝に飛び上がって逃げたのにもかかわらず、この例や本研究の事例だけが横の茂みなどにすぐに逃げ込まなかつたのは、経験が浅い幼鳥であるために混乱して逃げ方がわからなかつた可能性や、採食を妨げた相手を調べに来ただけであった可能性もある。

4例目は他種に対する攻撃的行動で、コルリの幼鳥雄が自分よりも大きく、成鳥で全長22cmのクロツグミ幼鳥や同じく全長23cmのマミジロ幼鳥を追いかけた。自分より大きな野鳥を攻撃する例として、筆者は2022年10月19日、神戸市西区神

出町で越冬なわばりを形成するモズ *Lanius bucephalus* Temminck and Schlegel, 1845(全長 20 cm)の雌が電線にとまつたトビ *Milvus migrans* (Boddaert, 1783)(全長 60 cm)の頭部付近に体当たりして飛び退くという一連の攻撃行動を 2 回行うのを目撲した(青山, 未発表). トビは体当たりされた瞬間に眼を閉じたが、特にダメージを受けているように見えなかつた。コルリに関する異種間での攻撃行動は、5 月に中国四川省成都において本種の雄と、同じヒタキ科のノドグロコマドリ *Luscinia obscura* (Berezowski and Bianchi, 1891) が互いに追いかけ合いを行ったことが報告されている(Qian and Yi, 2011).

なわばりとは、何らかの資源を占有するために他個体から防衛する空間のこと、防衛される資源は主に配偶者や繁殖場所あるいは餌である(粕谷, 2012). 夏鳥として日本に渡来するコルリは、繁殖地ではつがいでなわばりを形成する(羽田・堀内, 1969; 田村・上田, 2001; Tamura and Ueda, 2001). しかしながら、本研究の攻撃的行動が観察された時期は繁殖期終了後の越冬地への渡りの途中であり、さらに攻撃的行動を示した個体は当年生まれの幼鳥雄も含まれたことから、繁殖のためのなわばり行動ではない。一方、同じヒタキ科のジョウビタキ *Phoenicurus auroreus* (Pallas, 1776) は越冬のために日本に渡来し、1 羽ずつなわばりを形成する(田中・佐藤, 2013; 村上, 2015; 水谷・叶内, 2017). 村上(2015)では、その際に争う雄 2 羽の画像が示されている。近縁のルリビタキ *Tarsiger cyanurus* (Pallas, 1773) も同様の、越冬時におけるなわばり行動を示すと考えられている(一ノ瀬・永石, 1995). ジョウビタキやルリビタキでは越冬なわばりであることから、防衛目的の資源は餌であると考えられる。コルリ幼鳥もクロツグミ幼鳥などを追いかけた場所で、それらと同様に果実をついぱむのが確認されており(青山, 未発表)，餌に対する競合対象と見なしたのかもしれない。コルリ幼鳥は同一と見なされた個体が少なくとも 4 日程度同じ場所に採食に現れた(青山, 2024; 青山, 2025). すなわち、本研究のコルリで見られた攻撃的行動も、渡りの途中の短期間であっても、引き続ぐ渡りに備えるために餌を占有しようとするなわばり行動であったのかもしれない。あるいは、東南アジアや中国南部で越冬するコルリがそこでなわばりを形成するという報告は見あたらないが(Lynam et al., 2006; Reeve et al., 2015; Paguntalan et al., 2021)，もし越冬地でなわばりを形成するのであれば、渡りの途中でなわばり行動が発現し始めていたという可能性もある。ただし、北野(1999)によると、秋には数羽の群れやカラ類との混群で行動していることもある。本研究の 4 例目の観察場所でも 8 月 27 日に別々に採食活動を行っていた幼鳥雄 2 羽が約 1m まで接近したが、特に攻撃的行動は見られなかつた。このうち 1 羽は上述の他種に対する攻撃的行動を示した個体であった可能性もある。今後、さらに観察例を増やし、攻撃的行動を行う原因について解明する必要がある。

謝 辞

本報告をまとめるにあたり、日本野鳥の会ひょうごの福本誠氏には画像の提供について、西宮市在住の船越孝育氏には情報の提供についてご協力をいただきました。元神戸市立須磨海浜水族園 学芸員の土井敏男博士には原稿のご校閲をいただきました。心より感謝申し上げます。

利益相反

本研究を実施するにあたり、特定企業との利害関係はありません。

引用文献

- 青山 茂. 2024. 渡りの時期に神戸市周辺で観察されたコルリの行動. 兵庫生物, 16, 7–12.
- 青山 茂. 2025. 地面に落ちたタカノツメの実を採食したコルリ. 人と自然, 35, 30–34.
- Canova, L. and Fasola, M. 2004. Aggression and microhabitat segregation among nesting common terns *Sterna Hirundo* and Mediterranean gulls *Larus melanocephalus*. *Avocetta N°*, 28, 5–8.
- 羽田健三・堀内洋子. 1969. コルリの生活史に関する研究. I 雛の食物および育雛行動. 信州大学志賀自然教育研究施設研究業績, 8, 79–86.
- 早川雅晴. 1998. フロリダ北西部でのアメリカコアジサシとクロハサミアジサシの繁殖状況. 日本鳥類標識協会誌, 13, 11–21.
- 一ノ瀬友博・永石文明. 1995. 越冬期の狭山丘陵における鳥類標識調査. 日本鳥類標識協会誌, 10, 76–87.
- 香川敏明. 1989. 同所性オオヨンキリとヨンキリの種間関係. 日本鳥学会誌, 37, 129–144.
- 叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄. 2011. 山溪ハンディ図鑑 7 増補改訂新版 日本の野鳥. 山と溪谷社, 東京.
- 粕谷英一. 2012. 6. 動物の行動と社会. 日本生態学会(編), 生態学入門 第2版. 東京化学同人, 東京, pp. 107–128.
- 北野光良. 1999. 新・神戸の自然シリーズ 2 神戸の野鳥. 神戸市体育協会, 神戸.
- 清棲幸保. 1952. 日本鳥類大図鑑I. 講談社, 東京.
- Lynam A. J., Round P. D. and Brockelman W. Y. 2006. *Status of birds and large mammals in Thailand's Dong Phayayen-Khao Yai forest complex*. Biodiversity Research and Training (BRT) Program and Wildlife Conservation Society, Bangkok.
- 水谷高英・叶内拓哉. 2017. フィールド図鑑日本の野鳥 第2版. 文一総合出版, 東京.
- 村上良真. 2015. 岡山市犬島で確認された非繁殖期におけるジョウビタキの集団鳴りと縄張り争い. *Naturalistae*, 19, 37–39.

中村登流・中村雅彦. 1995. 原色日本野鳥生態図鑑(陸鳥編). 保育社, 大坂.

日本鳥学会. 2024. 日本鳥類目録改訂第8版掲載鳥類リスト.

<https://ornithology.jp/checklist.html>

(Excel ファイル | 2024 年 10 月 8 日 ver.1 公開)

Paguntalan, L. J., Canag, J. F. D., Oporto, D., Jakosalem, P. G., Cruz, M. D. and Fernandez, G. 2021. Bird surveys in Turtle Islands Wildlife Sanctuary, Philippines. *The Palawan Scientist*, 13, 101–117.

Qian, W. and Yi, H. 2011. Little-known Asian bird: First images in the wild of Blackthroat *Luscinia obscura*, Asia's most enigmatic robin. *Birding ASIA*, 15, 17–19.

Reeve, A. H., Mittermeier J. C., Fabre P. H., Rosyadi, I., Kennedy, J. D. and Haryoko, T. 2015. New additions to the avifauna of Obi Island, Indonesia, with comments on migration and breeding seasonality of Moluccan birds. *Forktail*, 31, 98–102.

杉田昭栄. 2004. カラスの行動特性および保有病原体. 鶏病研究会報, 40, 81–89.

Takahashi, M. and Ohkawara, K. 2007. Breeding behavior and reproductive success of Grey-headed Lapwing *Vanellus cinereus* on farmland in central Japan. *Ornithological Science*, 6, 1–9.

田村 實・上田恵介. 2001. コルリの繁殖生態. *Strix*, 19, 11–20.

Tamura, M. and Ueda, K. 2001. Female song in the Siberian Blue Robin *Luscinia cyane*. *Journal of the Yamashina Institute for Ornithology*, 32, 86–90.

田中正晴・佐藤重穂. 2013. 高知県におけるジョウビタキの性比と越冬個体数の年変動(スズメ目ヒタキ科). 四国自然史科学研究, (7), 12–15.

山岸 哲. 1978. ホオジロの社会構造と繁殖番い数の安定性. 山階鳥類研究所研究報告, 10, 199–299.

Abstract

Four cases of agonistic behavior by the Siberian Blue Robin, *Larvivora cyane*, were observed during the autumn migration in August and September 2023 and 2024 in Kobe city. The first case occurred as intraspecific fighting: a juvenile male and another male were observed to attack each other for a short duration. The second case occurred as intraspecific chasing: a female which climbed a slope suddenly flew downward towards an individual of unknown sex ca. 7 m apart and drove it away. The third case occurred as an attack against the human observer. A juvenile male foraged on the ground and the observer slowly approached. Then, the male aggressively flew near the head of the observer, before returning mid-flight. Based on the information from a collaborative observer, the last case occurred as interspecific chasing: a ground foraging juvenile male *L. cyane* sequentially drove, with calling a sound like “bee,” away a juvenile Japanese Thrush *Turdus cardis* and then a juvenile Siberian Thrush *Geokichla sibirica* which came close to the male *L. cyane*. These cases are likely to be temporal territorial behavior in relation to foraging for prey items.

Keywords: autumn migration, interspecific chasing, intraspecific chasing, intraspecific fighting, *Larvivora cyane*